

科目分類	助産学実践科目 実践・関連			開講時期	1年 前期	
授業科目	周産期の診断と技術Ⅱ（分娩期・胎児期・新生児蘇生法）					
選択／必修	必修	単位数（時間数）	2単位	30時間	授業形態	講義・演習
担当教員	茂庭 将彦 ・ 木下 珠希 ・ 窪田 裕子 ・ 田中 真穂					
メールアドレス	n-moniwa@tsuruga-nu.ac.jp(茂庭) t-kinoshita@tsuruga-nu.ac.jp(木下) y-kubota@tsuruga-nu.ac.jp(窪田) m-tanaka@tsuruga-nu.ac.jp(田中)	オフィスアワー		随時相談に応じます。 事前にメール連絡してください		

到達目標	<p>1) 分娩期及び胎児・新生児（出生直後）期における対象者について、正常な経過とその逸脱の判断に必要な知識について説明できる。</p> <p>2) 分娩期及び胎児・新生児（出生直後）期における対象者について、正常な経過とその逸脱に必要な知識を統合し、判断する過程を説明できる。</p> <p>3) 分娩期及び胎児・新生児（出生直後）期に必要なケア、分娩介助技術に関する基本的な助産技術について、助言を得て実践することができる。</p>
授業概要	産婦の健康状態および分娩経過にかかわる助産診断、産婦の援助技術と分娩介助技術を理解し、産婦に対して適切な助産診断と分娩介助を含む助産技術を実践できる基礎的能力養う。
授業内容	<p>第1回 助産師が行う分娩期ケアの基本的な考え方</p> <p>第2～4回 分娩経過の診断に必要な知識</p> <p>第5・6回 分娩第1期の診断とケア（潜伏期・活動期）</p> <p>第7・8回 分娩第2期の診断とケア</p> <p>第9回 分娩第3・4期の診断とケア</p> <p>第10回 出生直後から24時間までの新生児の診断とケア</p> <p>第11回 分娩期における異常</p> <p>第12～15回 分娩期における助産過程の展開（事例展開）</p> <p>第16～20回 分娩期に必要な診断技術（清潔操作・産痛緩和・導尿・内診技術）</p> <p>第21～26回 分娩介助診断技術 （清潔野の作成・分娩介助技術・会陰切開・会陰縫合）</p> <p>第27回 出生直後の新生児の診断技術・胎盤計測</p> <p>第28～30回 新生児蘇生法</p>
教科書・参考書等	<p>教科書：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ 妊娠期，医学書院</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期，医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2018年度版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会</p> <p>細野茂春. 新生児蘇生法テキスト第3版. メジカルビュー社</p>

	<p>参考書：日本産婦人科学会「産婦人科診療ガイドライン 産科編」 荒木勤，最新産科学 正常編，文光堂 荒木勤，最新産科学 異常編，文光堂 北川真理子他，今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第3版，南江堂</p> <p>*授業内で適宜紹介する。</p>
成績評価 基準・方法	筆記試験 50%，実技試験 40%，レポート 10%
履修要件	なし
留意事項・ その他	<p>助産過程を展開していく上で、看護過程、基礎看護技術が基本になります。看護師基礎教育で学んだ既習の知識・技術を復習して講義・演習に臨んで下さい。</p> <p>定期試験期間に行う筆記試験が、実技試験の受験試験要件になります。また実技試験の合格が、後期「助産学実習Ⅱ」の履修要件になります。</p>